



荒高PTA・後援会だより

いなりだい

Vol. 88

令和4年2月24日発行

発行：山形県立荒砥高等学校PTA・後援会
編集：山形県立荒砥高等学校PTA文化部
連絡先：〒992-0831
山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲367
TEL(0238)85-2171 FAX(0238)85-2823
URL <http://www.arato-h.ed.jp/>



今年度からスタートした「荒高掲示板」
白鷹中・長井北中・長井南中のほか、各コミセンにありますのでぜひご覧ください！(毎月更新)



この一年を
振り返って
PTA会長
横山 歩御

日頃より荒砥高校の活動にご協力頂き、誠にありがとうございます。今年も新型コロナウイルスにより、PTAでの活動、生徒会活動への参加等すべてにおいて中止せざるを得ない状況が続いていますが、生徒達には今年度最後まで健康で学校生活ができるよう切に願っています。最後にありますが、白鷹町長様をはじめとした町民の皆様、後援会の皆様、多大なるご支援ご協力に心より感謝申し上げます。来年度はマスクのない生徒達やPTAの方々の笑顔があふれる活動が再開できますよう心から願っております。



令和4年2月24日発行

いなりだい

第88号(6)

令和3年度

3年生進路先一覧

※2月1日現在
(■男、●女)

★就職者 15名(男10名 女5名)

白鷹町 6名 (男5名 女1名)

- ・株式会社ハヤタ製作所
- ・株式会社アーレスティ山形
- ・山形新興株式会社
- ・テルス株式会社
- ・有限会社ナカヤマ製作所

県外 2名 (男1名 女1名)

- ・神職研修所
- ・株式会社佐々木組

長井市 6名 (男4名 女2名)

- ・株式会社丸秀長井工場
- ・しかまハウス
- ・株式会社タスパーホテル
- ・株式会社サンユー技研
- ・那須建設株式会社
- ・株式会社喜助

県内 1名 (男0名 女1名)

- ・有限会社梅花堂

★進学者 19名(男5名 女14名)

大学 5名 (男3名 女2名)

- ・国公立 (男0名 女1名)
 - ・山形県立米沢栄養大学
 - 健康栄養学部健康栄養学科
- ・私立 (男3名 女1名)
 - ・東北公益文科大学公益学部公益学科
 - ・東北芸術工科大学デザイン工学部
 - プロダクトデザイン科
 - ・芸術学部歴史遺産学科
 - ・愛知工業大学情報科学部情報学科
 - ・コンピュータシステム専攻

短期大学 4名 (男0名 女4名)

- ・国公立 (男0名 女0名)
- ・私立 (男0名 女4名)
 - ・羽黒学園短期大学幼児教育科幼児教育コース
 - ・福島学院大学短期大学部保育学科
 - ・校の聖母短期大学生活科学科
 - ・福祉子ども専攻子ども保育コース

専門学校 10名 (男2名 女8名)

- ・山形美容専門学校
- ・山形歯科専門学校
- ・山形調理師専門学校
- ・大原スポーツ公務員専門学校山形校
- ・仙台総合ベトナム専門学校
- ・仙台子ども専門学校
- ・仙台総合ビジネス公務員専門学校
- ・東京ITプログラミング&会計専門学校仙台校

今年度の進路状況を振り返って
進路指導課 白田 元
今年度の三年生三十六名は、約四割が就職・約六割が進学を希望しています。今年度も就職・進学ともにコロナ禍の影響が心配されましたが、結果的にそれほど大きな影響は見られませんでした。就職については、昨年度のように就職試験のスケジュールが一カ月後ろ倒しされるといふこともなく、例年通りに実施されました。また、昨年度からのコロナ禍による経済活動の自粛が及ぼす影響として求人の落ち込みも懸念されましたが、経済活動の再開の後押しも

あり、ハローワーク長井管内の求人倍率は昨年同様の五倍を維持し、生徒はしっかりと選ぶことが出来ました。そのお陰もあり、今年度もハローワーク長井管内の企業から多くの生徒が内定をいただくことが出来ました。地域を支える人材の輩出を目指す本校としてもうれしい限りですが、大事なことは継続して働けるかどうかです。多くの企業が設けている試用期間を過ぎても働けるよう、入社後も一生懸命に頑張ってください。

進学については、本校は多くの生徒が学校型推薦選抜や総合型選抜等を利用して進学しております。今年度は、四年制大学への進学がめざましく、本校が総合学科に学科改編して以来初の国公立大学進学をはじめ五名の生徒が工業系や芸術系の大学に進学することが決定しております。来年度も今年度に続き、なりたい自分になるために高みを目指して挑戦して欲しいと思います。また、昨年度から入試制度が変わり、必ず学力を測ることが義務化され、併せて在学中の学校内外の諸活動について、受験生が各学校に報告することとなりました。進学を志す人は、これまでに日頃の学習等にしっかりと取り組み、同時に、学習だけでなく様々な活動にも自主的かつ探究心を持って取り組んで欲しいと切に願っています。

筋肉痛を越えて

三年次主任 本田 礼

二〇一九年四月八日、四十三名入学した現三年次は、三十六名で卒業しようとしています。卒業アルバム原稿には、入学直後の「中学四年生」の姿から、高校生らしい顔つきに変化していく様が見取れます。この年次の目標「自律と自立」をこの場所からスタートする。それは案外、簡単なことではなさそうです。いよいよ四月一日から、成人年齢十八歳が施行されます。本校を卒業した者の約半数はすぐに社会へ羽ばたき、もう半数は、より大きな学校で研鑽に励みます。そこへ向けた「自立のための自律」を問われる日々、あたかも筋トレで筋肉痛を起こすような頭や心の「筋肉痛」で右往左往した生徒たちは、少しずつ、タフになっていきました。ドラマチックな成長の場に三年間立ち会えたことを、嬉しく思います。様々な思いを経て入学した十五の春、「脱どうせ」を胸に、たくさん秘めていた伸びしろを、思い思いに伸ばした十八歳。その彼らを三年間支援して下さったPTA、後援会をはじめ白鷹長井を中心とした地域の皆様へ、心から感謝いたします。今、荒高生は自慢の生徒たちです。

今年度のPTA活動を振り返って

PTA担当職員 斎藤 麻実

令和三年度のPTA活動は、昨年度と同様に感染対策のため、すべての活動が中止になりました。文化部の主な活動である「いなりだい」の発行もPTA担当職員が行いました。その一方で、三年次の就職活動には試験解禁の遅れ等の影響もなく、文化祭一日目の午前には保護者の方の参観も可能になるなど、少しずつではありますが日常に戻りつつあるように感じます。二年次の修学旅行も行先の変更はありましたが、当初予定していた三泊四日の日程で実施することができました。未だ予断を許さない状況ではありますが、生徒達は充実した高校生活を過ごしているように思います。一日でも早く新型コロナウイルスが終息し、本来の学校活動が取り戻せることを願っております。発行に伴い、後援会の皆様、原稿執筆にご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。来年度も本校の教育活動にご協力のほど、宜しくお願い致します。

荒高祭特集



今年度は、『Moment』大切な人と刻む』をテーマとして掲げ、荒高祭を運営して参りました。前年度はコロナウィルスの影響で思うような活動ができなかったこともあり、一・二年生にとつては荒高祭がどのようなものなのか想像することが難しかったと思います。しかし、各クラスで話し合いを進め、準備期間中も一生懸命活動に取り組む姿が見られました。少人数であることに加え、制限がかかる中での行事開催ではありましたが、一人ひとりが輝ける場所を見出し、笑顔溢れる瞬間を刻むことができたと感じています。

文化祭当日は、企画委員会で作成した写真アートをはじめ、生徒会企画や有志企画など沢山の方の協力のおかげで盛り上がる事が出来ましたみなさんにとつて思い出となる瞬間を大切な人と刻むというテーマに沿って荒高祭を大成功で終えることが出来たことに心から感謝しています。



荒高祭実行委員長
鈴木 愛華

結果自然成
(けっかしぜんなり)



後援会長
菊地 豊宗

世の中は、
新型コロナウイルス
感染者が減少
してきたと思ったら、新たな
「オミクロン株」などの急増
で、全く終息の見通しの立た
ない誠に不安な状況下にあ
ります。そんな中にも拘わら
ず会員の皆様には、荒砥高校
の教育活動支援の為に、物心
両面にわたってご支援ご協
力を戴いていることに厚く
御礼を申し上げます。

荒砥高校は、生徒数の減少
に伴い、小規模校として教職
員も削減されていますが、少
ない中において教職員が一
体となつて、学習や部活動の
指導に当たっておられます。
生徒達も呼応するように「な
りたい自分」を目指して頑張
っているようです。

「結果自然成」という言葉
があります。それは、目標に
向かって日々たゆまぬ努力
を続けていれば結果はおの
ずとやってくる、という意味
です。今、荒砥高校は学校存
続に向けて、町当局を中核と
して地域連携協議会を設置し
協議を進めている最中です。

正月三日の山形新聞に白
鷹町の荒砥高校への取り組



みが記事として取り上げられ、まじった様に、白鷹町は、定員割れが続いている荒砥高校の入学者の確保に向けて、従来の応援券の支給やスクールサポーターの配置等で対応して来られました。しかし、年々厳しくなる実情に對してスクールバスの利用や修学旅行費用の補助など支援事業の拡充が実施される事となり、後援会が窓口になり対応することとなりました。必ずや、この支援が良い結果として表れてくるものと願ひ、後援会として今後とも地域の高校存続と、生徒たちの夢現実のため会員が一人となつて支援して参りたいと思ひますので、今年もご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。

荒砥高校



校
地主長
佳子

PTA、後援会の皆様
には、日頃から本校の教育活動に対し、ご理解ご協力、多大なるご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年（から丸二）年を経て、感染症対策の「新しい生活様式」も、すっかり定着した学校生活となりました。そんな中でも、今年度はできることを工夫して行事を実現したい、様々な活動を取り戻したい、そんな思いでスタートしたところでしたが、早いもので年度末を迎えようとしています。

二年ぶりに開催した体育祭は、経験者が三年次生しかないという状況でしたが、全校生が紅白に分かれ、徒競走、障害物競走、リレー、そしてダンス披露と大いに盛り上がりました。二年次生の就業体験活動では、地域の事業所の皆様に大変お世話になり、働くことの厳しさやりがいを教えていただきました。荒高祭も、一般公開はできなかったものの、ステージ発表や各企画が工夫され、楽しく充実した二日間でした。関西から東北に行き先を変更した修学旅行では、防災学習をテーマに掲げ、東日本大震災の十年後を訪ねる三泊四日の旅と

なりました。クラスマッチは、球技を中心に、各クラスの団結を強めることができました。また、部活動では、総合文化部囲碁班が東北大会、全国大会への連続出場を果たしています。吹奏楽部は、コンクールやコンテストへの出場、地域イベントにお招きいただいたの演奏のほか、十八回目を数えた定期演奏会では五百名を超える来場者をお迎えし、共演者の皆様と感動のステージを創り上げました。

あつという間の一年、数々の感動の場面での、生徒たちの笑顔や涙が目には焼き付いています。

そして、荒砥高校魅力化協議会の取組みも二年目を迎え、計画を一つずつ実行に移しています。本校入学者の確保が大きな課題ですが、職員一同皆様から寄せられるご声援にお応えできるよう、一層教育活動の充実に取り組んで参ります。今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。



令和3年度 後援会特別会費で支援団体・個人 ご支援ありがとうございました。

《團體公開開發株式會社
白鷹製紙株式會社
山形新興株式會社
株式會社ニクニ白鷹
株式會社ハヤタ製作所
有限建設長谷部鉄筋
衣袋建設株式會社
常安寺
しらたか不二サツン株式會社
東北部品株式會社 山形工場
日本G.T株式會社 山形工場
九ト建設株式會社
株式會社アレックスティ山形
有限公司社セイノヤ
有限公司社三和製作所
株式會社鈴木カヤマ製作所
株式會社鈴木木工商店
大崎緑地造園株式會社
株式會社志ん月
テルス株式會社
丸吉コンクリート工業株式會社
須貝設備工業株式會社
多田醫院
那須建設株式會社
医療法人社団仁鷹會
株式會社佐藤藥料店
株式會社山古堂
社會福祉法人 長井弘徳會
社會福祉法人 長井福祉會
山形精密鑄造株式會社
山形日信電機株式會社
株式會社喜助
株式會社うめ
株式會社カヲ秀 長井工場
株式會社権名製作所
社會福祉法人 白鷹福祉會
医療法人社団聰明會
加々多ワリエン株式會社事務所
株式會社三浦エソジニアリング
株式會社デンソー山形
株式會社ホタテ山形
山形青果センター株式會社
共栄建運株式會社
有限公司社小崎自動車整備工場
有限公司社佐藤製作所
有限公司社ヒゲエエス
株式會社サケケ電子
今間メリヤス株式會社
株式會社セントラルリス
寒河江物流株式會社

《個人》
薊地 豊男
土方 俊男
関 千鶴子
五十嵐政司
青木 彰榮
守谷 丹吾
沼澤今朝夫
同窓會関東支部
荒砥高校教職員一同

《順不同・敬称略》

《順不同·敬称略》

トランスマッパ



入賞おめでとう!



・ドッジボール	・バドミントン(男子)	・バドミントン(女子)
優勝 三年一組	優勝 三年一組A	優勝 三年二組A
準優勝 三年二組	準優勝 三年二組A	準優勝 三年一組B
第三位 二年一組	第三位 二年一組	第三位 三年二組B
		" 二年一組

虹架夢進

前生徒会長 洪谷 歩奈

今年度は「虹架夢進」の生徒会スローガンの下、活動に取り組んできました。今年もコロナ対応で様々な制限はありましたが、ボランティアや行事を通して、荒高生一人一人の個性の輝く活動ができました。特に、三行の行事の体育祭と荒高祭が印象に残っています。昨年度開催できなかった体育祭は無事開催することができました。荒高祭では、生徒会企画の、〇×クイズや絵描き歌クイズなどをしました。クイズでは、全校生徒と先生方に参加して頂き、体育館中に笑い声が響き渡る程、盛り上がりがありました。企画をするにあたってスムーズにいかないことがありましたが、沢山の方々に支えて頂き、大成功で終えることができました。本当にありがとうございました。来年は更に今年度よりも少人数となりますが「小規模校だからできる事」を強みとし、様々な活動に力を入れて頑張ってください。

変わりがながらも

新生徒会長 遠藤 蓮華

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大が心配される中、三行の行事すべてが無事に成功しました。成功することが出来たのは先輩方がみんな楽しめる企画を考え、率先して実行してくださったからです。私達の代から各学年がクラスとなることで、生徒会の組織が変わります。その中でも先輩方の伝統を引き継ぎながら、多くの方々の力を借りて、学校を盛り上げていくように一生懸命頑張ります。一年間よろしくお願いたします。

生徒会役員紹介

令和三々四年度

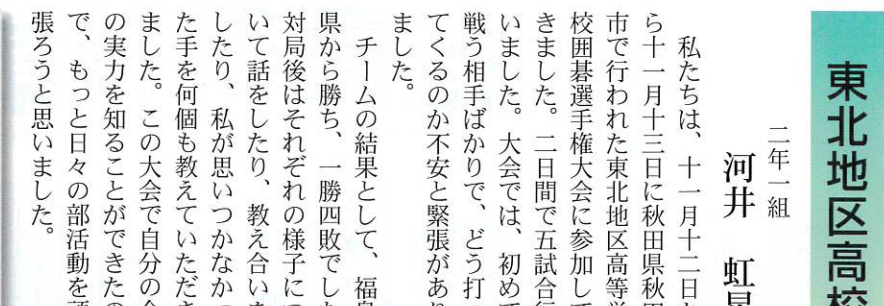
会長	遠藤 蓮華
副会長	菅間 楓穂
事務局長	金田 実佳
議 長	佐藤 優太
生活委員長	河井 虹星
保健委員長	嶋 貴 瑞穂
図書委員長	齋藤 結愛
広報委員長	小林くらら
企画委員長	須貝 沙蘭
応援団長	土屋 恵吾
事務局員	松野きらら

東北地区高校囲碁選手権大会

二年一組 河井 虹星

私たちは、十一月十二日から十一月十三日に秋田県秋田市で行われた東北地区高等学校囲碁選手権大会に参加してきました。二日間で五試合行いました。大会では、初めて戦う相手ばかりで、どう打ってくるのか不安と緊張がありました。

チームの結果として、福島県から勝ち、一勝四敗でした。対局後はそれぞれの様子について話をしたり、教え合いをしたり、私が思いつかなかった手を何個も教えていただきました。この大会で自分の今の実力を知ることができたので、もっと日々の部活動を頑張ろうと思いました。



修学旅行

十年の月日 二年一組 佐藤 和輝

三泊四日の旅行は、コロナ禍でひきこもりな私にとって外出するのは二年三ヶ月ぶりです。久々の遠出にワクワクと緊張感がありました。感染予防のため福島・宮城・岩手の三県に行き先を変更し、「被災地を巡る」というコンセプトで実施しました。

旅行中は天気も良く、太平洋沿いの道路をバスで走るときに車窓から眺める海がキラキラしていて美しかったです。印象に残ったことは奇跡の一本松と向洋高校です。陸前高田市にあるその松は、津波で沢山の松が流される中で唯一残った松で、私には華奢に見えましたが、向洋高校は気仙沼市に震災遺構として残っており、津波の被害を受けたときは三階の教室まで自動車が波に押し寄せられて突っ込んだそうです。自動車は今も現場に残っており、津波の恐ろしさを教えてくれました。

津波の恐ろしさを次世代に伝える、そうやって同じ悲しみを繰り返さないことの大切さを実感しました。

